

「安心・活力・発展プラン2005」 安心部会 委員発言に対する対応状況

No.	項目	発言要旨	施策・取り組みコード	所管部局
1	子育て支援	地域には子育ての手伝いをしたいという人が沢山いる。このような人をうまく活用できるような、地域力の底上げも必要。「女性の働く場」「子どもをあげる場」「急なときの対応」の3つともえの支援が必要であり、制度で足りない部分を支えるのが「地域の力」(元保育士、元看護師等)	安心-1-①	福祉
2		勤務時間が不規則な女性は、どうしても保育園には頼れない。そのような女性と、子育てを支援してくれる高齢者をマッチングさせるとうまくいくのではないかと。	安心-1-①、安心-3-①	福祉
3		子育て支援施策について、高齢者支援よりも少し取組が弱いのではないかと。地域の子どもや家庭に対する支援をもっと充実させる必要がある。	安心-1-①	福祉
4		周囲が家庭に問題があると認識していても、今の体制では交番や民生委員が家庭に入ることができない。かゆい所に手が届いていない。	安心-2-②	福祉
5		子育て支援には、きめ細やかに個別支援を行う視点が重要。母親に提供するサービスの選択肢をたくさん用意すると共に、母親と事業、さらに地域をつなぐような仕組みを構築する必要がある。	安心-1-①	福祉
6		子育てとはこういうものだ、という先入観をもたないこと。多様なニーズがある。難しいとは思いますが、支援の面でもたくさんの選択肢がほしい。	安心-1-①	福祉
7		子育て支援、女性支援を行うに当たっては、30代～40代の独身男性が結婚・子育てについてどう思っているか調査してほしい。女性の意識と相当ギャップがあるはず。	安心-1-①	福祉
8		子育ての項目に「働く女性の支援」というキーワードが必要ではないかと。	安心-1-②	福祉
9		子育て支援策について、市町村間で格差、温度差があるので、県からも市町村へ助言、指導してほしい。	安心-1-①	福祉
10		20歳で子どもを産むのと35歳で子どもを産むのとではどうしても違いがある。子育て支援策に母体の安全に関する教育を入れるべきではないかと。	安心-3-①	福祉
11	ひとり親支援	ひとり親家庭、とりわけ母子家庭の貧困対策について、仕事の斡旋まで含めて政策を考えるべき。	安心-2-④、安心-2-⑤(福祉) (活力11-①(商労))	福祉 (商労)
12		母子家庭の就労支援について、福祉保健部と商工労働部が連携しながら、しっかりと就労につながる仕組みを構築していくことが重要。	安心-2-④(福祉) (活力11-①(商労))	福祉 (商労)
13		ひとり親家庭はワークライフバランスが整わない。延長保育への助成や子育ての困り事を相談できる場所づくりが必要なのではないかと。	安心-2-④	福祉
14	出会い応援	出会う場があるだけでは足りない。声をかける人、場につないであげる人が必要。	安心-3-①	福祉
15	高齢者支援	山間地の農林業支援、子育て支援、教育支援などの分野で、高齢者に現役世代として働いてもらうことが必要。サロンには出ていかないが、現役的な働き場には出ていく。	安心-1-①、安心-3-①、安心-7-①	福祉
16		「高齢者を高齢者が支える」、「高齢者と若者が共同で高齢者を支える」という視点がこれまで乏しかったのではないかと。	安心-7-①	福祉
17		各地域の高齢者からは「することがない」という声をよく聞く。生涯現役という仕組みを政策誘導で作っていかないと、これからの高齢化社会を乗り切れない。	安心-7-①	福祉
18		悪徳商法の横行、孤独な高齢者、受診難民や買物難民等、高齢者をとりまく環境は年々悪くなっているように感じる。	安心-21-②	福祉
19		地域包括ケアシステムについて、市町村格差を作ってはいけないが、市町村を競争させ、最低レベルの格差を作らせて取組を促していくことも県の役割ではないかと。	安心-7-③	福祉
20		認知症介護を経験した人が認知症介護で悩む家庭を訪問する等、高齢者を介護する方への支援を充実してほしい。	安心-7-④	福祉

No.	項目	発言要旨	施策・取り組みコード	所管部局
21		自分の親が認知症になった時に相談する所がない。専門家につなげるようなコールセンターを作ってはどうか。	安心-7-④	福祉
22		世間に名の知れた企業が悪質商法を行っている。アイネスにもう一段の努力を、商工労働部には企業側への指導の強化をお願いしたい。	安心-17-①(生環) (活力-7-④(商労))	生環 (商労)
23		防犯パトロールに加わりたいという高齢者が、どこに相談したら良いかわからないという声を聞く。高齢者の活用にもっと取り組んでほしい。	安心-7-①	福祉
24		健康寿命を延伸させるには、高齢者に人材が不足している福祉分野で活躍してもらえば良い。そのためにアナログで情報を伝えていくことも大切。	安心-7-①(福祉) (活力-11-①(商労))	福祉 (商労)
25	高齢者・障がい者支援	大分県は高齢者美術が盛んであり、発達障がい者の美術レベルも高い。心の癒やしとしての芸術という観点について、県立美術館において配慮いただきたい。	安心-7-②、安心-8-④(福祉) (発展-9-①(企画))	福祉
26		引きこもりの方や社会的に不適合となっている子どもたちに対するアートの活用も検討してほしい。	安心-8-④(福祉) (発展-9-①(企画))	福祉 (企画)
27	障がい者支援	障がい者雇用で、今後特に力を入れてほしいのは場所の提供、機会の提供。県庁舎や振興局を折々解放してもらって、野菜の朝市や、作ったものを販売させてほしい。また、イベントがあるときに出店させてもらったり、椅子出し等の仕事を発注してもらいたい。	安心-9-②	福祉
28		触法障害者支援について触れるべき。	安心-21-③、安心-8-③	福祉
29		精神科救急・医療についてはもう一段の取組を。特に認知症疾患対策。	安心-8-③、安心-6-②、安心-7-④	福祉
30	医療	「精神科医療体制の充実」という漠然とした言葉ではなく、「精神科救急と長期入院の是正」を明確に入れてほしい。	安心-6-②、安心-8-③	福祉
31		平成27年度から地域医療ビジョン策定が開始されるが、人口が減少している地域の医療機能を一律に削減することのないようにしてほしい。	安心-6-③	福祉
32	福祉一般	福祉に対する市町村の力には格差がある。底上げをするための県の支援、調整がますます必要。	安心-1-①、安心-7-③、安心-8-②	福祉
33		県民アンケートでも、「暮らしやすさの重要項目」として、「海・山などの豊かな自然環境」がトップとなっている。豊後大野、姫島がジオパークに認定されたが、もっと自然環境を大切にしていこうと求められているのではないか。	安心-10-①	生環
34		生物多様性戦略は、豊後大野市のみ作成予定で、その他の市町村は作成予定すらない。県の意気込みが市町村に伝わっていないのではないか。	安心-10-①	生環
35	環境	ごみゼロおおい作戦はすばらしかったが、次の段階として、海洋や大気、源流対策等、もう少し広い視野で考えるプランがほしい。	安心-10-①、安心-11-②、安心-12-①、安心-13-③	生環
36		大分県では各家庭でのCO2排出削減の取組が行われているが、こうした地道な取組を続けてほしい。	安心-12-①	生環
37		環境と農業と食育とツーリズムについて、それぞれの施策は入っているが、連携した姿が見えない。次回部会には連携策を示してほしい。	安心-18-①(生環) (活力-4-①(農林)) (活力-14-②、活力-14-③(企画))	生環 (農林) (企画)
38	環境・食育	世界農業遺産を長期的な視野で環境づくり、地域づくり等に活用してほしい。食が元気になれば、農業も地域も元気になるため、地域の食文化の発信をしていきたい。また、食育についても長期的な視野を持って取り組んで欲しい。	安心-18-①(生環) (活力-4-①(農林))	生環 (農林)
39	食育	食育については、生活環境部・福祉保健部・教育委員会が連携して取り組んでほしい。	安心-18-①(生環) 安心-1-①(福祉) (発展-1-①(教育))	生環 福祉 (教育)
40	人権	不登校の子どもたちが集まるような団体に土地は譲渡できないと地主から言われた。これは人権の問題だと思う。	安心-19-②	生環
41		小規模集落対策、特に買い物弱者対策が重要。買い物ができないというのは集落のコミュニケーションの場がないということ。	安心-22-④	企画

No.	項目	発言要旨	施策・取り組みコード	所管部局
42	地域づくり	中山間地域等直接支払制度について、例えば移住してきた農業をやりたい若者に、集落の面倒も見てもらう代わりに金銭的援助を行う等、人づくりに着目した制度の活用も考えられる。	安心-22-③(企画) (活力-1-③、活力-3-②(農林))	企画 (農林)
43		地域のオピニオンリーダーの育成にもっと力を入れてほしい。	安心-22-③	企画
44		格差拡大、貧困の連鎖の防止という視点も今後は重要。	安心-2-⑤、安心-21-③	福祉
45		キーワードから買物弱者対策が漏れているのではないか。	安心-22-④	企画
46		障害のある人が担い手不足の農業を支える、高齢者が子育てを支えるなど、すべての県民に居場所と出番のある地域づくりが大切。	安心-3-①、安心-7-①、安心-8-④、安心-21-②(福祉) 安心-22-③(企画)	福祉 企画
47		バスやタクシーの代替ではなく、自家用車の代替機能を果たす、有償ボランティアによる移動支援を推進することが必要。	安心-21-③(福祉) (発展-18-③(企画))	福祉 (企画)
48		地域おこしに頑張っている学生等の姿を情報発信することが、地域で頑張りたいという人が動き出すきっかけになるのではないか。	安心-22-③(企画) (発展-4-①(教育))	企画 (教育)
49		災害対策	災害に強い県土という部分では、ハード面で解決というだけでなく、ソフト面での取組、地域のつながりやコミュニティを強くすることも大事なのではないか。	安心-23-②
50	災害時の交通対策について、車を使っはいけないとよく言われるが、高齢者のいる世帯や福祉施設等ではそうはいかない。交通対策についてのガイドラインを作らないと大混乱になる。		安心-23-③	生環